



— 当院の理念 — 安全・安心・信頼の医療

新年を迎えて 病院長ご挨拶

日頃より当院を利用いただきありがとうございます。
謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年はインフルエンザも例年より早く流行が始まりましたが、皆様におかれましては今年も健やかな良き一年になりますよう祈念致します。

2026 年新年を迎えて改めて病院紹介をさせていただきます。

当院は、日々、患者様の穏やかで苦痛の少ない医療の遂行に努力しております。

入院病棟におきましては、脳卒中や肺炎などの急性期の疾患が回復しても、なお、継続的な治療を要する方、例えば、車いす移乗もできずベッド上での寝たきり状態のかたや、嚥下障害が残り経口摂取困難の方、あるいは喀痰吸引を持続的に必要とするような方の長期的な入院治療を行っております。

多くは、急性期病院からの紹介により患者様に入院していただいております。今後も、急性期病院と在宅医療の間にたって、患者様によりスムーズにご利用いただけるようしっかり病診連携・病病連携をしていきたいと考えております。

また、外来診察では、内科、整形外科、皮膚科診療を行っており、風邪や打撲捻挫や湿疹など軽い症状の方も、迅速にかつ丁寧に診察することを基本としております。

さらに健康診断、ワクチン接種も随時おこなっており、地域の住民の方の日々の健康維持にご利用いただけたらと考えております。

リハビリテーション機能を向上させるために、昨年より PT(理学療法士)も一名増員しており、また、機能訓練室の拡充も計画しており、より丁寧なリハビリを受けていただくことができるものと思います。

当院の理念にありますように、安全・安心の医療をおこなうのはもちろんのこと、患者様、ご家族の皆様には十分病状を説明し、信頼関係のうえで治療をすすめていく、丁寧に患者様に優しい医療を行うことを病院の基本方針としております。これからも地域貢献できるよう努力していきますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



医療法人華之会 箕面中央病院

病院長 野崎 秀一

箕面中央病院

〒562-0001 大阪府箕面市箕面6丁目4番19号

TEL 072-721-3294



箕面中央病院 ご案内

— 箕面中央病院 機能訓練室拡張の予定について —

当院では、リハビリテーションをするためのスペースである機能訓練室を拡張する工事を企画しております。

今年の5月連休前の完成をめざしております。完成に先立ち、概略をご説明します。

機能訓練室を拡張することにより、より広い場所で快適に物理療法(低周波、マイクロ波、温熱療法等)や個別の理学療法士による運動療法を受けていただくことができます。

物理療法に使用するマイクロ波、低周波の機器を一部新規更新し、台数も増やす予定です。

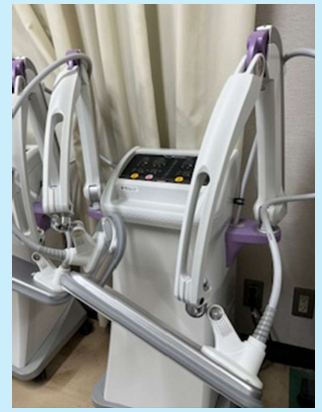
このことにより、皆さんの待ち時間を減らすことができると思います。

また機能訓練の施設基準が変更されますので、現在の整形外科疾患中心のリハビリテーションに加えて、脳血管疾患の運動療法も可能となります。

スペースが広くなることにより、平行棒や歩行器を使った歩行訓練も可能となります。運動療法に関する機器も順次導入していく予定です。

慢性腰痛症など、理学療法士による個別運動療法とともに、物理療法も継続的に行うことがより効果を生み出すケースがありますので、整形外科医師の指示に従い、受けていただければと思います。

また、当院の物理療法は、これまで午前だけでしたが、午後も可能にする予定です。ご期待いただけましたら幸いです。



マイクロ波:温熱効果で血行促進
筋肉のコリや炎症を
和らげる



低周波:微弱な電気刺激で筋肉の
コリや痛みを和らげる



「胸の痛みに注意！」

寒い季節に多く発症する病気の一つが心臓病ですが、心臓病のなかでも最も注意しないといけない疾患の一つが心筋梗塞や狭心症といわれる虚血性疾患です。心臓の筋肉に酸素と栄養を送っているのが冠状動脈という動脈ですが、この動脈が狭くなったり、詰まったりして、血液が十分流れなくなり酸素不足(虚血)になる疾患です。

典型的な症状は胸痛です。動いた時、例えば坂道を上る時に胸が締め付けられるというのは狭心症の典型的な症状ですが、心筋梗塞は、安静時でも胸痛が発症します。強い胸痛を感じ、それが30分以上持続し、冷や汗、吐き気を伴ってることが多いです。多くはこの段階で受診されたり、救急車を呼ばれると思います。

ただ、心筋梗塞の症状が典型的でないことがあることに注意です。

例えば、吐き気がつづく、心窩部が痛む、胃が痛いという消化器症状だったり、胸痛がそれほどではなくて、ただ、しんどい、息苦しいという症状が全面にでることもあり注意です。

或いは、胸部ではなくて、左肩が時々痛むという症状で、結局心筋梗塞に進んでしまっていたという例もあります。いずれも、心電図検査や血液検査である程度、心筋梗塞かどうかの診断がつくことが多いですので、気になる症状があれば軽い症状でも、とにかく受診頂ければと思います。